

令和 7 年度

兵庫県立視覚特別支援学校

支援部

アイ・あい だより

10月号



夏の暑さが一段落して、本格的な秋の到来を感じます。「スポーツの秋」「食欲の秋」など秋を形容する言葉はたくさんあります。そして、「読書の秋」もその一つ。ではなぜ、「読書の秋」というようになったのでしょうか？読書の秋といわれる由来は色々あるようですが、中国の唐時代の詩人である韓

愈（かんゆ）の詩の中にある「時秋積雨霽 新涼入郊墟 燈火稍可親 簡編可卷舒」（秋になって長雨が終わって空も晴れ、涼しさが丘陵にもきている。ようやく夜の灯に親しんで、書物を広げられる）という一節から、秋が読書に向いている季節とされるようになったといわれています。夏目漱石も小説「三四郎」の中でこの言葉を引用しており、そのイメージが広まったと言われています。よい季節、本に手を伸ばしてみては・・・



創立120周年記念式典・文化祭

歌って踊って Hop・Step・Jumping！！

日時 令和 7 年 11 月 1 日（土）9：00～15：00
（受付：8：30～）

内容 120周年記念式典・各学部やクラブによるステージ発表・展示
視覚補助具等展示、理療機器展示・販売

日程 8：30 受付開始
9：00 120周年記念式典
9：35 文化祭開会式
9：40 ステージ発表
（音楽部→幼小学部→中学部→高等部）
12：30 展示・催し物 （一部 13:00 以降開始）



開始時刻	内容
12：30	・幼小学部展 ・中学部展 ・高等部普通科展 ・美術部展 ・パソコン部展
13：00	・高等部普通科（販売） ・理療機器展 ・視覚補助具等展
13：15	・クイックマッサージ
13：30	・ミニコンサート（音楽部演奏）

15：00 閉会

渾身の力を込めた演技・作品にご期待ください

TOPICS



年長期の読みに繋がる活動

年長児の読みに関する発達段階は、文字や言葉に対する理解を深め、自分で読む力を身につけていく過程で、大まかに4つの段階があります。

1. 文字への興味・関心の芽生え（年長前半）：絵本や文字に対して興味を持ち始める。自分の名前や好きな言葉を認識する。文字や絵を見て、「読める・書ける」と感じる場面も出てきます。
2. 文字と音の連動を理解（年長前半～中盤）：見た文字を音読しようとする。音声と文字の関係に気づき、文字を見て音声を予測できるようになる。
3. 簡単な語や文章の理解（年長中盤）：短い単語やフレーズを読むことができる。絵本の文章を一部読むことに挑戦。文の区切りや文字の配置に関心を持ち始める。
4. 自分で読むことへの自信と意欲（年長後半）：簡単な絵本や文章を自信を持って読む。読みながら内容を理解し、感想を伝えることもできる。読む楽しさを感じ、積極的に本に取り組むようになる。

具体的な活動としては・・・

絵本の読み聞かせと対話。子どもたちが好きな絵本を選び、一緒に読む時間を設けます。その後、「このキャラクターはどう思う？」「次は何が起きるかな？」など、質問を投げかけて対話を促します。これにより、文章に対する興味と理解が深まります。

音読とリズム遊び。リズムに合わせて短い文章や詩を声に出して読む練習をします。歌やリズム遊びも取り入れると、楽しく覚えやすくなります。

気を付けたいポイントとしては・・・

音声と連動した読み聞かせを行う。視覚のみに頼らず、音声やリズムに合わせて文字や言葉に親しむ活動。耳からの情報も言語理解に役立ちます。

拡大した絵本の読み聞かせを行う。文字や絵が大きく見える絵本やカードを使って、子どもが見やすい環境を整えます。必要に応じて、光や照明を調整します。また、書見台の利用もお勧めです（書きにもつながります）。



書見台

年長期の書きに繋がる活動

年長期の「書き」に関する発達段階としては、「読み」の発達段階とリンクしながら

1. 運筆の向上：鉛筆や筆を正しく持ち、線や形を安定して書く能力が発達します。これにより、文字の形やバランスを意識できるようになります。
2. 文字認識と記憶：ひらがなやカタカナの認識が深まり、文字を書きながら意味や音と結びつけて記憶します。
3. 表現力の拡大：絵と文字を組み合わせることで物語や感情を表現する活動を通じて、自己表現やコミュニケーション能力が育ちます。

気を付けたいポイントとしては・・・

文字や枠の大きさやコントラスト（強めが良い）や筆記具（ペンの線の太さや色、ペンの太さ持ちやすさ等）も大切ですが、視認性を最大限に高めるために、書く際の姿勢にも注意が必要です。机と椅子の高さが適切で、目と紙の距離が調整できるように工夫すると良いです。また、十分な照明を確保することも、視認性を改善するために欠かせません。

